

ザンビア政治・経済月報(2015年7月)

主な出来事

【内政】

- ・21日、ルング大統領はリビングストーンにおいて、26名のトンガ民族伝統的指導者と意見交換を行った。意見交換後、大統領府は、トンガ民族伝統的指導者がルング大統領のザンビアの一体性を維持していくための努力を支援していくことに合意した旨を発表した。
- ・22日、ヒチレマUPND党首はムワンバ国民議会議員(元国防大臣)がUPND副党首に就任した旨を発表。
- ・28日、マタビニ国民議会議長は国民議会において、ムワンバ議員が議席を失った等の宣言を行った。
- ・31日、ウィナ副大統領は国民議会において、チャマPF幹事長のトンガ民族に関する発言につき謝罪。

【外政】

- ・5日から7日にかけて、ルング大統領はマラウイ独立51周年記念式典に出席するためマラウイを訪問。
- ・23日から25日にかけて、ルング大統領はウガンダを訪問。
- ・31日から8月3日にかけて、ムタリカ・マラウイ大統領一行は第89回ザンビア・農業・商業展示会開会式等に参加するためザンビアを訪問。

【経済】

- ・エネルギー規制委員会(ERB)は、燃料価格の値上げを発表した。今回の値上げにより、ガソリンは1リットルあたり1.13クワチャ増の9.87クワチャ、ディーゼル原油は1リットルあたり1.00クワチャ増の8.59クワチャ、灯油0.72クワチャ増の6.12クワチャとなった。右値上げは13日深夜から実施された。
- ・23日、ザンビア政府は、インフラ開発を目的とした総額12.5億米ドルのソブリン債の発行を成功裏に実施した。右ソブリン債の利率は8.97%で、返済時期は2025年、2026年、2027年の3回である。
- ・28日、カンブウィリ情報通信大臣は、記者団に対し、27日開催の閣議にて2022年及び2024年に完済時期を迎えるソブリン債返済のための減債基金(sinking fund)の設立が承認された旨を発言した。同大臣は、減債基金は9年間にわたり運営される予定であり、ソブリン債返済のための資金確保に資する旨を発言した。
- ・中央統計局(CSO)が発表した7月の貿易赤字は前月比8300万クワチャ増の12億9300万クワチャへと増加した。

* PF: 愛国戦線(与党), MMD: 複数政党制民主主義運動(第1野党), UPND: 国家開発統一党(第2野党)

* タイムズ、デイリーメールは国営。ポスト、デイリーネーションは民営。

【内政】

- ・7日, マラウイから帰国したルング大統領はルサカ空港において, トンガ民族の一部関係者がチャマPF幹事長の発言を口実に南部州の分離独立を画策しているとの報告を受けている旨発言。また, ルング大統領は, もしトンガ民族伝統的指導者がチャマ幹事長の発言に憤りを感じているのであれば, 自分(ルング大統領)と意見交換を行うべきである旨発言。(8日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・8日, カンブウィリ情報放送大臣は, ザンビアからの分離独立についての話し合いは国家反逆罪に相当する旨発言。(9日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・11日, カリバ・ダム等を視察中のルング大統領は4名のトンガ民族伝統的指導者(「ムエンダ」, 「チペソ」, 「シマンバ」, 「シナダブウェ」)と意見交換を行った。大統領府は, 当該伝統的指導者が南部州の分離・独立の動きに関与することはない旨確約したと発表。(12日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・13日, カンブウィリ情報放送大臣は, 19日開催予定のトンガ民族関係者会合において南部州の分離・独立が議題となれば, 同会合の召集者は逮捕されることになる旨発言。(14日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・14日, ムブクワヌ南部州大臣は南部州州都チョマにおいて, 14名のトンガ民族伝統的指導者と意見交換(非公開)を行った。意見交換後, 伝統的指導者「ハムソンダ」は当該意見交換に参加したトンガ民族伝統的指導者を代表して, ザンビア政府及びトンガ民族伝統的指導者はメディアを通じて民族主義的な発言を発信しないことに合意した, トンガ民族伝統的指導者はチャマPF幹事長の発言を巡る考えの違いを解消するため, ムブクワヌ大臣に対し, ルング大統領との意見交換の場を設定するよう求めた旨発言。(15日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・15日, ヒチレマUPND党首は, 本件に関し, ザンビア国民は, 民族主義に関する事項ではなく, 他の課題に注力すべきである旨の声明を発出。ルング大統領はヒチレマ党首の声明を評価する旨発言。(16日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・15日, ルング大統領は, ザンビア政府が, 19日開催予定のトンガ民族関係者会合に特段の干渉しない旨発言。伝統的指導者「チカンタ」は, ルング大統領の対応を評価する旨発言。(16日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・19日, トンガ民族関係者会合が南部州モンゼにおいて開催された。同会合後, ハマコワ会合議長は, 自分達(当該会合出席者)は南部州の分離・独立を求めている旨発言するとともに, チャマPF幹事長等がトンガ民族に対し民族主義的な発言を行うことは不公平である旨発言。(20日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・21日, ルング大統領はリビングストンにおいて, 26名のトンガ民族伝統的指導者と意見交換

- (非公開)を行った。意見交換後、大統領府は、トンガ民族伝統的指導者がルング大統領のザンビアの一体性を維持していくための努力を支援していくことに合意した旨発表した。(22日、タイムズ、メール、ネーション)
- ・21日、ルング大統領とトンガ民族伝統的指導者との意見交換において、伝統的指導者の一部(「チペポ」,「ナルバンバ」)は、チャマPF幹事長、ピリPF副幹事長、カンブウイリ情報放送大臣の辞職を求める発言を行った。(22日、ポスト)
 - ・22日、ヒチレマUPND党首はムワンバ国民議会議員(元国防大臣)がUPND副党首に就任した旨発表。ムウイラ国民議会議員(PF, 内務大臣)は国民議会において、ムワンバ議員の議席の有効性に関する議題を提議。(23日、タイムズ、メール、ネーション)
 - ・26日、ルング大統領はルアプラ州ンチェレンゲ郡において、ザンビアで初めてとなる海兵隊の創設を発表した。(27日、タイムズ、メール、ネーション)
 - ・28日、マタビニ国民議会議長は国民議会において、ムワンバ議員が議席を失った等の宣言を行った。(29日、タイムズ、メール、ネーション)
 - ・31日、ウィナ副大統領は国民議会において、チャマPF幹事長のトンガ民族に関する発言につき謝罪。(8月1日、タイムズ、メール、ネーション)

【外政】

- ・5日から7日にかけて、ルング大統領はマラウイ独立51周年記念式典に出席するためマラウイを訪問。(8日、タイムズ)
- ・11日、シッデシュワラ重工業・公的企業副大臣がザンビアを訪問し、ルング大統領に対し第3回インド・アフリカ・フォーラム・サミットへの招待状を手交した。(12日、13日、メール)
- ・19日から21日にかけて、ルング大統領夫人は第9回子宮頸部・乳・前立腺癌を防ぐ会に出席するためケニアを訪問。(20日、メール)
- ・20日から21日にかけて、ウィナ副大統領はAU国際エボラ出血熱会合に出席するため赤道ギニアを訪問。(21日、メール)
- ・23日から25日にかけて、ルング大統領はウガンダを訪問。(26日、メール)
- ・31日から8月3日にかけて、ムタリカ・マラウイ大統領一行はザンビアを訪問し、ルング・ザンビア大統領、カウ ندا・ザンビア初代大統領と会談したほか、政府主催晩餐会(於:パモジホテル)、第89回ザンビア・農業・商業展示会開会式(於:ルサカ)等に出席した。(8月4日、タイムズ)

【経済】

- ・2日、ヤルマ鉱山エネルギー水開発大臣は、ザンビア政府が150メガワットから200メガワットの電力輸入を検討している旨明らかにした。(3日、タイムズ)
- ・ムスクワ鉱山エネルギー水開発副大臣は、2014年のエメラルドの生産量が2012年比5.37トン増の34.34トンを記録した旨明らかにした。(6日、タイムズ)
- ・ズル鉱山エネルギー水開発副大臣は、向こう4ヶ月間の銅の産出高が電力不足によって急激に

減少する見通しである旨明らかにした。(13日, タイムズ)

- ・エネルギー規制委員会(ERB)は、燃料価格の値上げを発表した。今回の値上げにより、ガソリンは1リットルあたり1.13クワチャ増の9.87クワチャ、ディーゼル原油は1リットルあたり1.00クワチャ増の8.59クワチャ、灯油0.72クワチャ増の6.12クワチャとなった。右値上げは13日深夜から実施された。(14日, タイムズ)
- ・ザンビアは、モーリシャスとの10年間の投資促進及び投資保護協定に署名した。ムワナカトウェ商業貿易産業大臣は、本協定の署名を経て、モーリシャスの投資家によるザンビアの織物産業及び観光業への投資が促進されることを望む旨発言した。(15日, メール)
- ・コッパーベルト・エネルギー社(CEC)は、国内の電力不足に鑑みて、コッパーベルト州の鉱山に対する電力供給を30%まで削減する意向である旨発表した。(16日, ポスト)
- ・エネルギー庁関係者は、政府が昨今調達した原油の酸性度が想定よりも高いために、インデニ製油所の主要設備が損傷を受け、同製油所が閉鎖中である旨明らかにした。同関係者は、この誤りによって、ザンビア政府は精製済みの石油製品を輸入せざるを得ず、燃料価格の値上げを引き起こしている旨述べた。(17日, ポスト)
- ・ザンベジ河川庁(ZRA)は、安全な稼働及び南部アフリカ地域における電力供給向上を目的として、カリバ・ダム の修復作業(総額2億9000万米ドル)を開始した旨発表した。(21日, メール)
- ・ルング大統領は、産業開発公社(IDC)に対し、国内の電力不足を緩和すべく、少なくとも600メガワット分の太陽光発電を開発するように指示した。(22日, メール)
- ・23日、ザンビア政府は、インフラ開発を目的とした総額12.5億米ドルのソブリン債の発行を成功裏に実施した。右ソブリン債の利率は8.97%で、返済時期は2025年、2026年、2027年の3回である。(24日, ポスト)
- ・21日、インデニ製油所は、酸性度の高い原油から生じた腐食によって主要なパイプが破裂したことを受け、再び閉鎖された。(24日, ポスト)
- ・ザンビア開発庁(ZDA)は、ザンビアを魅力ある投資先とすべく、ZDA法の改正作業中である旨明らかにした。チサンガZDA長官は、同法の改正にあたり、民間セクターとする全ての関係者との討議を実施している旨発言した。(28日, タイムズ)
- ・28日、ザンビア開発庁(ZDA)は、2015年前期の対ザンビア投資プレッジ額が、2014年前期比25億米ドル減の11億米ドルに減少したことを発表した。チサンガZDA長官は、投資プレッジ額が減じたのは2014年12月から2015年2月にかけて大統領予備選の選挙活動が実施されたためであると発言した。(29日, タイムズ)
- ・28日、カンブウィリ情報通信大臣は、記者団に対し、27日開催の閣議にて2022年及び2024年に完済時期を迎えるソブリン債返済のための減債基金(sinking fund)の設立が承認された旨発言した。同大臣は、減債基金は9年間にわたり運営される予定であり、ソブリン債返済のための資金確保に資する旨発言した。(29日, メール)
- ・ザンビア中央統計局(CSO)は、7月のインフレ率が、6月と同率の7.1%を記録した旨発表した。(31日, メール)

- ・CSOが発表した7月の貿易赤字は前月比8300万クワチャ増の12億9300万クワチャへと増加した。(31日, タイムズ)